

令和6年

10月号

No.660



法音

日蓮宗
法音寺

今月のご法話

親孝行のこと

悦可衆心

よい教えを伝えよう
おし った

今日一日、

人に感謝しましょう

今日一日、

人に親切にしましょう

今日一日、

人を善に導きましょう

月刊・法音 令和6年10月号 No.660 目次

【信仰の指針】孝心こうしん 孝行は善行の基礎です

【朝のこない夜はない】

親孝行のこと

山首 鈴木正修

◆ 講日のご案内

◆ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

◆ 全山一斉清掃奉仕の日のご案内

◆ 仏教漫画『日蓮さま』・塚原三昧堂

◆ 塚原三昧堂

◆ お寺の本棚

◆ 常寂光土への誘い ⑳

◆ のりのね体験

◆ 支院だより

◆ 福祉のひろば

○ 幸せのお手伝い

○ 昭徳会・メンタルヘルス研修を開催

○ 日本福祉大学・日本福祉大学卒業生のご紹介

◆ 賛助員ご芳名

◆ 幸せの種まき／編集後記

◆ 連載まんが・ひまわり・141 運がはこんだもの

◆ 法音寺の社会福祉・教育事業

掲載写真 表紙・信仰の指針 3頁～19頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

表紙写真・コスモス

信仰の指針

孝心

こ
う
し
ん

孝行は善行の基礎です

日教五



おじぎ草



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

親孝行のこと

孟蘭盆会の時、仏弟子の目連尊者が布施の功德を積み、それを回向して慳貪の罪によって餓鬼道に落ちたお母さんを救ったという話をさせていただきました。私は、これは真の親孝行の話だと思います。

日蓮聖人は開目鈔の中で次のように言われています。

「孝と申すは高なり、天高けれども孝よりは高からず。又孝とは厚なり、地厚けれども孝よりは厚からず。聖賢の二類は孝の家より出でたり」

(孝ということは高ということである。天が高いといつても孝の徳より高いことはない。また孝とは厚ということである。大地がどれほど厚いといっても孝の徳より厚いことはない。古の聖人や賢人とされる人は孝を重ん



じることを生き方の根幹としてゐる)

戦前の『修身』の教科書に次のように書かれています。

「孝は百行の基」「一孝立ちて万善これに従う」

「孝は百行の基」とは、孝行はさまざまに善い行いの基礎となり、孝心なくして善い行いはできない、ということです。

「一孝立ちて万善これに従う」とは、

孝行な人は自然に色々な善い行いができて、自ずと徳が集まる、ということなのです。

日本では昔から親孝行は大変尊ばれてきましたが、戦後になって教育内容が変わり、『修身』もなくなり、親孝行を声高に言うことがなくなってきました。

昔の書物には『修身』以外にも親孝行の話がたくさんありました。東海地方では、「養老の滝の話」が有名です。孝行息子の徳で滝の水が酒に変わったという話です。



『暴れん坊將軍』で有名な徳川吉宗の話を紹介したいとおもいます。徳川吉宗は享保の改革で幕府の財政を立て直した名君として有名ですが、次のような逸話があります。

ある時、吉宗が鷹狩りに出かけました。そこに「將軍さまを一目見たい」と大勢の人が集まってきました。鷹狩りの行列が、ある村を通り過ぎる時に、老母を背負った若者がいました。吉宗がその姿を見て、家来に事情を聞きに行かせました。すると村の顔役が言うには「あの男は有名な孝行息子で、母親が『冥土の土産に一目將軍さまを見たい』と言うので、遠方から母親を背負ってきただのです」ということでした。それを聞いた吉宗はその若者に大層な褒美を取らせました。次の年も吉宗は鷹狩りに出向き、同じ村に通りました。するとまた老母を背負った若者がいたので、前回と同じように様子を聞きに行かせたところ、村の顔役は言いました。



「あれは駄目です。去年の話を聞いて、普段は家にも寄りつかないのに、褒美欲しさに母親を背負ってやって来たのです。あんな者に褒美をやってはいけません。癖になります」

それを聞いて吉宗は言ったそうです。

「いいではないか。真似事でも善いことをしているのだから、褒美をやれ」

すると、その村では親孝行を真似する者が増え、それが自然に本当の親孝行となつて、ついには「孝行村」と言われるようになったという話です。「真似でもいいから褒美をやれ」という吉宗の寛大さ、さすが名君です。

このような話が江戸から明治にかけてたくさんあります。

中国に『二十四孝』という、二十四人の孝行者の話が



あります。これは江戸から明治にかけて日本では知らな
い人ははいなくらいに有名な話でした。二十四人の中か
ら数人の話を紹介します。

まず孟宗竹に名を残す孟宗です。

幼い頃に父を亡くした孟宗には病気の年老いた母親が
いました。その母親が真冬に「筍が食べたい」と言った
のです。真冬に筍があるわけがありません。しかし孟宗
は天に祈りながら、母親のために雪の中で筍を探したの
です。すると、孟宗のその親孝行の心が天に通じたのか、
雪が溶け、筍が生えてきたのです。孟宗がその筍を家に
持って帰り、料理をして母親に食べさせたところ、母親
の病気が治ってしまったというお話です。

舜という人の話も有名です。舜は父親と、継母が連れ
てきた息子に三度も殺されそうになります。毒を飲まざ
れそうになったり、生き埋めにされそうになったり、屋



根^ねの^のぼ^ぼ登^{のぼ}って^いると^し下^{した}から^ひ火^ひをつ^けら^れた^りし^ました[。]何^{なん}度^ども^{ころ}殺^{ころ}され^そう^になる^のに[、]舜^{しゆん}は^孝行^{こう}を^止め^ませ^んで^した[。]〃^じ自^じ分^{ぶん}の^孝行^{こう}が^足ら^ない^から^こう^いう^目に^遭う^のだ[。]も^っと^孝行^{こう}を^しな^けれ^ば…^と考^{かん}え^たの^です[。]

や^がて^父は^つい^に真^ま人^{にん}間^{げん}にな^った^いう^こと^です[。]

時^{とき}の^{てん}天^し・^ぎ堯^{よう}帝^{てい}が^舜の^人と^なり^を聞^きい^て、[「]そ^んな^感心^{かん}な^者が^いる^のか[」]と[、]舜^{しゆん}の^様子^{よう}を^見た^上で^自分^{ぶん}の^娘を^嫁が^せ、^つい^には^自分^{ぶん}の^跡継^{あと}ぎ[（]舜^{しゆん}帝^{てい}）と^しま^した[。]

こ^の話^はは^孝行^{こう}息^そ子^すが^皇帝^{こう}に^まで^なっ^たと^いう^話と^して^は有^{ゆう}名^{めい}で^す。中^{ちゆう}国^{こく}に^は聖^{せい}天^{てん}子^しと^呼ば^れる^人物^{ぶつ}が^五人^{にん}い^ます^が、^その^中に^堯帝^{よう}と^舜帝^{しゆん}が^入っ^てい^ます[。]

最^{さい}後^ごに^呉猛^{もう}の^話で^す。呉^ご猛^{もう}の^家は^非常^{ひじょう}に^貧乏^{びんぼう}で[、]夏^{なつ}に^蚊を^よける^蚊帳^{かや}を^買う^お金^{かね}が^あり^ませ^んで^した[。]母^は親^{おや}が^蚊に^刺さ^れて^可哀^{かわい}想^{そう}だ^とい^うこ^とで[、]あ^る時^{とき}呉^ご猛^{もう}は^裸に^なり[、]酒^{さけ}を^体に^吹き^つけ[、]蚊^かを^自分^{ぶん}に^引き^よ寄^よせ^て、母^は親^{おや}



蚊がに刺さされぬようにしました。するとその行おこないに天てんが呼よび応おこして、呉ご猛もうの体からだにも蚊かを寄よせつけず、二に人りとも蚊かに刺さされることになかったという話はなしです。

『二十四孝』の話はなしは、江戸えどから明めい治じにかけて孝行こうこうを勧すすめる訓話くんわとして有名ゆうめいでしたが、進歩しんぽ的な考かんえの慶應義塾けいおうぎじゆの創そう立り者しや・福沢諭吉ふくざわゆきちは、著書ちよしよ『学問のすすめ』の中なかで、

「この書しよを見みれば、十じゆに八はち、九くは人間にんげんにでき難がたきことを勧すすむか、又または愚ぐにして笑わらうべきことを説とく」と批判ひはん的です。呉ご猛もうの話はなしなどは「夏なつの夜よるに自じ分ぶんの身みに酒さけをそそぎて蚊かに喰くわれ、親おやに近ちかづく蚊かを防ふせぐより、その酒さけの代しろを以もつて蚊帳かやを買かうこそ智ち者しやならずや」と言いっています。

『二十四孝』は落語らくごにもなっています。今いまでは古典落語こてんらくごの一つです。先まづほどの呉ご猛もうの話はなしが下さげになっっています。

親不孝おやふこうな男おとこが大家おほやさんから「少すこしは孝行こうこうせよ」ということ、『二十四孝』の話はなしを聞きかされます。この男おとこは心こころ



を入れ替えて、ちよつと真似してみようと、『二十四孝』のうちのいくつかの話を実際やってみようと思います。しかし中々うまくいきません。最後に、呉猛の真似をして酒を買ってきて体に吹きつけて、「おっかあ、今日は蚊が来ないようにしてやるからな」と言います。ところが元々酒が好きなものですから、ほとんど飲んでしまい、ついに酔い潰れて寝てしまいます。朝起きたら、蚊に刺されていません。そこで母親に「どうだ、酒を塗ったのにわしは刺されなかったぞ。天が呼応したってやつだ。孝行の功德ってやつだな」と言ったら、母親が「何を言ってるんだい。私が一晩中あおいでやったから蚊が来なかったんだよ。この親不孝者」と言ったという話です。

法音寺の始祖・杉山辰子先生は、「法華経を実行するものは親孝行でなければならぬ」という話をよくされま



した。

御開山上人がその体験を「柔伏」という題のご法話で語っておられます。杉山先生から「法華經の教えを行う者が親の心に随うことができぬようではならない」と聞かされた御開山上人は三日程思索され、親の言うことは二つ返事で聞くと決心されたそうです。御開山上人のお父さん・徳太郎さんは中々頑固で、人の言うことや息子の言うことを聞かない人でした。そこで、父の言うことを「はい」と言って、随っていけるかな…と三日間考えられたそうです。その後、数年経って徳太郎さんが、「お前ほど、わしの言うことをよく聞いてくれる者はおらん」と言われたそうです。ここからが肝心ですが、それから御開山上人は徳太郎さんに、杉山先生の話、即ち慈悲・至誠・堪忍の三徳と行住坐臥のお題目の話をされたのです。すると、徳太郎さんは「そうかそうか、わし



は今まで法華経が、日常において実行して価値のある教えだとは知らなかった。ありがたいことを聞いた」と言われたそうです。それから熱心に御開山上人の話、要するに杉山先生の話聞くようになったのです。それ以前は、実は徳太郎さんは「わしの方が法華経のことはよく知っている。お前なんかには負けない」という風だったのです。それが、父親の心や言葉に従うように自らを変えたら、逆に父親が自分に随ってくれたということです。これは親子だけではなく、人間関係のすべてに当てはまります。人に言うことを聞いてもらおうと思ったら、まず聞いてあげなければ駄目です。「自分の言うことだけを聞いてくれ」というのは無理があります。やはり、人の言うことを聞いて、親切にして初めて、自分の言うことも聞いてもらえるのです。

その後、徳太郎さんは御開山上人を全面的に支援され、



最後は土地屋敷をすべて布教に役立たせるようにと遺言されて亡くなられました。現在その土地に開基堂が建っています。

日本の孝行の思想は儒教の影響が大きいです。これは孔子が弟子の曾子に孝道について語ったものです。

わが国では、聖徳太子の頃にはすでに『孝経』は伝わっていました。そして奈良時代の孝謙天皇の御代には、家毎に『孝経』一本を蔵するように詔があったそうです。時代が降って平安時代の淳和天皇の御代では、皇太子の読書始めに『孝経』が用いられるようになりました。

鎌倉時代になると將軍の読書始めにも用いられるようになり、江戸時代には大名の若君の漢籍の習い始めに用いられました。明治の頃からは国民道徳の振興のために



広く読まれるようになりました。

その『孝経』の最初に孔子は次のように語っています。「孝はあらゆる徳と称せられるものの根本をなすもので、徳というものも畢竟は孝にほかならぬものである。故にこの徳の根本が確立して後に初めて、人の踏み行う道も生ずる。すべての教えというものは、これから起こってくるのである。即ち徳といい、道というも皆この孝以外にはないのである」

その後孔子は「そんなにむずかしく考えることはない」とも弟子の曾子に語っています。

「例えば、親からいただいた体だからと健康に気をつけるのも親孝行だ。日々徳を積もうと思つて生活をすれば、それも親孝行である」

日常の中に親孝行はある、ということなのです。

また『孝経』の最後には次のようにあります。



「親を祀る時は神仏を祀るようにせよ。そして命日等には必ず生前のことをみんなて語り合いなさい。それが功德になる」

一万円札の肖像画になった実業家・渋沢栄一も非常に親孝行を尊んだ人でした。当時、和田豊治という実業家がいきました。この人は親孝行で有名でした。渋沢栄一は孝行者はこんなに繁栄するということをみんなに広めたいと、わざわざこの人のために大宴会を催して表彰しました。そして記念品を贈ったのですが、その記念品が『孝経』でした。長い経典ですが、渋沢栄一自らが写経して、一本の巻物にして、「和田君、君のような人物がどんどん増えることを願っている」と言って手渡したそうです。



渋沢栄一の著書に、ある孝行息子の話があります。これを最後に紹介します。

江戸時代、九州の豊前国宇佐郡津房村という所に神崎右京という人がいました。この人の家は代々若宮八幡の神職だったのですが、たいへん貧乏でした。その人に八十二歳の母親がいました。足が不自由で、その上眼病に罹って目がほとんど見えませんでした。右京はこの老いた母親に誠実に仕え、できる限り喜ばせようと努めていました。ある日、母親が嘆いて言いました。

「私は若い時から一度、信濃の善光寺さまにお参りしたいと思っていたが、足も悪くなって歩けないし、目も不自由だし、とても生きている内には行けそうにない」

それを聞いた右京が言いました。

「母上、ご心配なさるな。必ず私がお供して参詣していただきます」



そして子の多宮にこう言ったのです。

「母上が信濃の善光寺へ参詣したいとおっしゃっている。道中母上を背負っていくつもりだ。しかし、なにぶん長旅となる。お前も加勢してくれぬか」

多宮も快く承諾し、寛政五年の春三月に豊前の国を出発しました。時に右京は五十三歳、息子の多宮は二十二歳でした。二人は母親を代わる代わる背負って旅を続けました。貧乏ですから路銀（旅費）が充分にありません。母親だけを宿に泊めて、自分達はほとんど野宿をしました。そして三百里（およそ千二百キロ）の道を数カ月かけて善光寺に着きました。参詣を遂げた三人は、また数カ月かけて豊前の国に戻りました。このことが領主に伝わって、「立派な孝行心だ」ということで、右京と多宮は大変な褒美を賜りました。

渋沢栄一が言っています。



「皆さん、どうですか。鬼おにももらい泣なきをするような良よい話はなしではないですか。孝行者ここうものの話はなしは、どこの国くにの話はなしでも、いつの時代じだいでも、いいものですか」



日蓮聖人の御命日法要（お会式）が厳修されます。
法音寺本山では、

10月17日（木）、午後1時30分より

講日に併せて営まれます。

皆さまのご参詣をお待ちしております。

◆今月の山首上人さまご親修日程

豊川支院	10月4日（金）	三原支院	10月13日（日）
亀岡布教所	10月14日（祝）	郡上八幡支院	10月26日（土）

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	6日・12日・26日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	4日・13日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0586)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-15813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	4日・14日・18日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)391-9733
大垣支院	1日・11日・19日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	3日・20日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	5日・14日・26日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	13日・26日	郡上市八幡町小野7-2-1-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3-4-7-5	☎(0595)21-0127

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	6日・20日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	6日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	12日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙9-10	☎(0799)421-0175
岡山支院	6日・8日・20日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	13日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	6日・20日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	13日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	6日・13日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	6日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・12日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	13日・20日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・20日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	14日・27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

山 齊 掃 全 一 清



2024年

10月13日



法音寺のご縁を通じて日本全国をきれいに美しく
仲間と掃除を通して心も体も
リフレッシュしませんか？

- ◆ 詳しくは支院青少年育成担当までおたずねください
- ◆ 皆さまお誘い合わせの上、ご参加をお待ちしております

主催：法音寺青少年育成委員会

<https://www.houonji.com/>

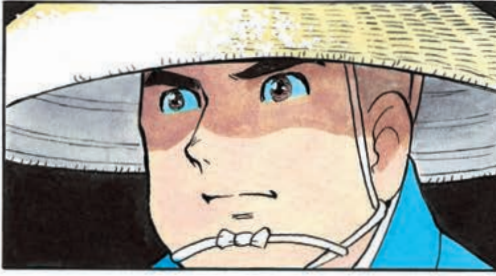
育成facebookQRコード
当日の風景を随時配信！



に ち れ ん
日蓮さま

30 つかはらさんまいどう
塚原三昧堂





すまぬが少し
道をお教え
願いたいのだが

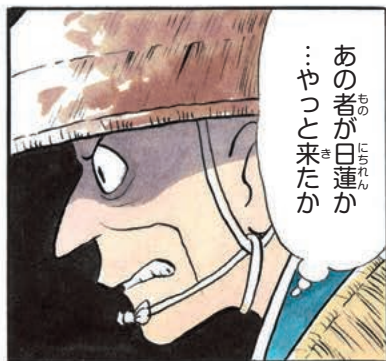


塚原三味堂へは
どう行けば
よいでしょう

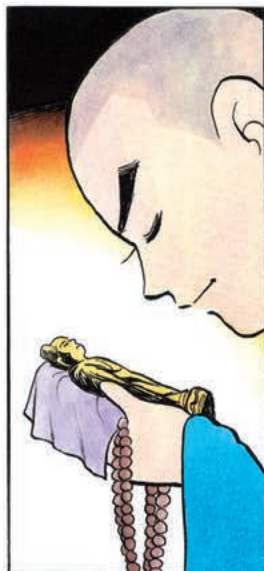


そなた この辺りでは
見かけぬ 御坊だな

鎌倉からまいった
法華經の行者
日蓮と申すもの
船から一人放たれ
道もわからず
困惑しております







南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

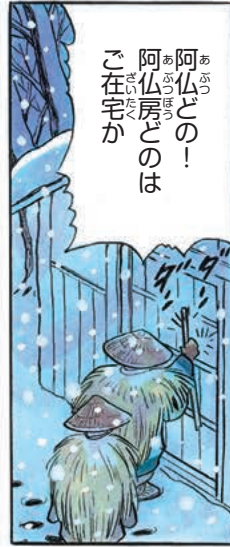


釈尊がご入滅になって二千年、日蓮ほど法華經のために身を苦しめる者は他に誰もいない



法華經の行はどんな場所でもできる

私は釈迦・多宝・十方の諸仏にほめていただけばそれで充分



阿仏どの！
阿仏房どの
ご在宅か

これは これは
生噓房どの
おや
印性房どの
まで…

どうぞされました
あなたのような
念仏の総元締が



阿仏房どの
憎むべき
念仏の仇
悪僧日蓮が
この島に
着きましたぞ



うぬう…
とうとう
来たか…



念仏者の積年の恨み
晴らさでおくものか

佐渡の念仏は
思いを一つにして
仇をうちたいもの

阿仏房どの
そなたの力も
ぜひ借りたい



それはもちろんの事
念仏の信心篤き順徳上皇の
ご遺志を継ぎこの島で
ご冥福を祈って三十有余年

この島が悪僧日蓮の
邪教に蹂躪されるなど
帝に対して申し訳が立たぬ



で今 日蓮は
どこに？

塚原の三昧堂だ

では
今から…

待たれよ
塚原は死人の捨て場所
あそこに近づく者など
おらぬ この寒さ
食べる物もなければ
放っておけば
数日で凍え死ぬわ



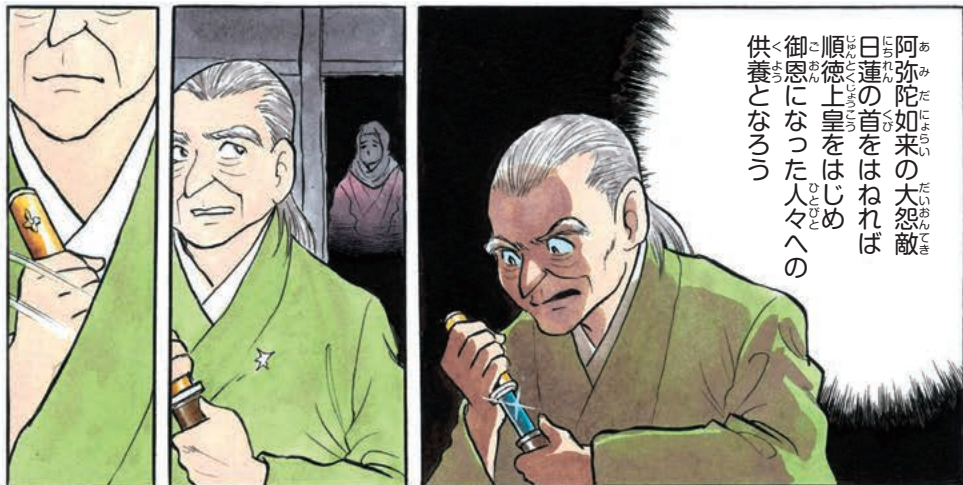
始末する方法は
改めてわれらが
考える よいな



佐渡へ流されてきた者で
生きてこの島から出た
者はおらん

おらぬ凍え死のうとも
恨んで殺されようとも
大して違いはないわ

しかし…



阿弥陀如来の大怨敵
日蓮の首をはねれば
順徳上皇をはじめ
御恩になった人々への
供養となるう



おまえさま

そこで話を
聞いていたのか？

容易ならぬこと
になりましたね

ああ



わしは 今から
出かける
戸締まりをして
用心するのだぞ

もう日が暮れました
用なら明日 日が
昇ってからになされば
よろしいのに

急ぐのだ
心配するな
行ってくる

危ないことは
おやめくたさいよ

もしや 塚原に
行かれたのでは…

つつく

塚原三昧堂

塚原三昧堂については、日蓮聖人の御遺文『種種御振舞御書』に描写されています。

「十一月一日に三昧堂へ入ったが、ここは本間六郎左衛門の家の後ろの塚原という山野の中で、洛陽の蓮台野のように死人を捨てる場所にある一間四面の堂で、仏もない。上は板間が合わず、四面の壁は荒れ果てて、雪が降り積もって消えることがない。こういう所に敷皮をしき、蓑を着て夜を明かし、日を送った。夜は雪・霰・雷電が絶え間なく、昼は日の光も差し込まず、心細い住居である」

このような場所に生きたまま捨てられたとすると、普通の人ならば絶望することでしょう。ところが、日蓮聖人は、阿私仙人に責められて功德を得た檀王や、比丘達に杖で打たれて一乗の行者と言われた不軽菩薩の例をもとに、末法に法華経を弘めて責めに遭っている自らの境遇を重ねて、「うれしいことである」と感想を述べておられます。さらに、その境遇に追いやった「北条時宗こそ善知識である」とも。極限状態にも決して怯まない日蓮聖人の信念の強さが表れています。



塚原山根本寺
佐渡市公式観光情報サイトより



お寺の本棚



『始祖・御法話集』

報恩








佐渡御書に曰く、「世間の人の恐るる者は、火炎の中と刀剣の影と、此の身の死するとなるべし。牛馬猶身を惜む、況や人身をや」と。

およそ世間の人が忌むものは、咄嗟の災難と、病氣と、この身の死することでありましょう。然らば、人々はこれら嫌忌すべきものを避けて、幸福へと、その道を踏みつつあるではありませんか。

自分さえよければ他人は如何に迷惑するとも構わぬ、というような心遣いをしたり、また、足ることを知らず常に不満を抱いて愚痴を言い、僅かのことにムカムカと腹立つようなれば、如何に災難を嫌うとも、これを免るることはできません。言うまでもなく、各人平素の心掛けが肝要であります。

世間には時折、何か良いことはないか、と尋ね合う人々を見聞き致しますが、その過去に善いことがたくさん行じてあればともかくも、善いこともせずしてどうして良いことがありまし





ようか。今までに善いこともせずして何か良いことはないかというのは、あたかも一粒の種もまかずして米は穫れぬかというのと、少しも変わりないのであります。

されば、良きことの到来するにはどうすればよいのでしょうか。申すまでもありません。何をおいても善根功徳を積まねばならぬのであります。仏道に依って慈悲・至誠・堪忍の精神修養をするのであります。

仏説いて曰く、「七宝を以て三千大千世界に満てて、仏及び大菩薩・辟支仏・阿羅漢に供養せん。是の人の所得の功徳、此の法華經の乃至一四句偈を受持する、其の福の最も多きには如かじ」と。また、「一切の樂具を以て四百万億阿僧祇の世界の六趣の衆生に施し、又阿羅漢果を得せしめん。所得の功徳は、是の第五十の人の法華經の一偈を聞いて隨喜せん功徳には如かじ。百分・千分・百千万億分にして其の一にも及ばじ。乃至算數・譬喩も知ること能わず」と。自分に精神修養をすると共に、他人にこれを教えて善道に入らしむることは、実に大いなる功徳であります。世界中の民衆に如何ほど財宝を与うると雖も、法を与えざれば、この民衆は現世安穩・後生善処と救わるることはできません。むしろ、怠惰者となるでしょう。もし、一人の立派な人物を作れば、この人が次から次へと立派な人を作って、ついには、全世界を平和に、即ち、娑婆即寂光土・娑婆即無上道ともすることができます。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (27)

無量義經 十功德品第三

善男子、第二に是の經の不可思議の功德力とは、若し衆生あつて是の經を聞くことを得ん者、若しは一転、若しは一偈乃至一句もせば、則ち能く百千億の義に通達して、無量数劫にも受持する所の法を演説すること能わじ。所以は何ん、其れ是の法は義無量なるを以ての故に。

「善男子よ、第二に是の經の不可思議の功德力とは…」

《第二、義生不思議力》

「この經を読んで、たとえ一部分だけでもその意味をよく味わうならば、それだけで数え切れないほど多くの意味を明らかにでき、無量数劫、如何に説いても説き尽くすことは不可能になるであろう。なぜなら、この教えはその意義が非常に深いからである」

「若しは一転」の一転とは、「ひとまわり」ということで、「お説教の一段落」つまり、全体をひと通り学んだということです。

「一偈」とは短い偈文。偈は、仏さまのみ教えを詩句によって述べたものⅡ偈頌。一番短い偈は、四句で

構成されます。一例として「此経難持・若暫持者・我即歡喜・諸仏亦然」（妙法蓮華経見宝塔品・
宝塔偈）が挙げられます。わずか四句で、仏さまのみ教えを持つ人の功德を言い尽くしてあることがおわ
かりいただけるでしょう。

善男子、是の経は、譬えば一の種子より百千万を生じ、百千万の中より一一に復百千万数
を生じ、是の如く展転して乃至無量なるが如く、是の經典も亦復是の如し。一法より百千
の義を生じ、百千の義の中より一一に復百千万数を生じ、是の如く展転して乃至無量無辺
の義あり。是の故に此の経を無量義と名く。善男子、是れを是の経の第二の功德不思議の
力と名く。

「譬えば一の種子より百千万を生じ…」 例えば種が一つありますと、その種が成長して新しい作物がた
くさんできます。お米にしても、一粒の種をまけばその一つが、秋の稔りの時には何十何百粒ものお米に
なるでしょう。一粒万倍とはこれを言います。仏さまのみ教えも、根本が一つわかりますと、そこから善
い考えが次から次に出て、善い行いも生み出されてくるのです。「この經典も、一つの法より百千の義を
生じ、百千の義の中から又、一々に百千万の数限りない義が生まれてくる」というのです。その中には、
どんなに巧みに説明しても説明し尽くし切れない、尊い意義が多く含まれているから「無量義」と名づけ
られているのであると言われ、これを「是の経を修行する第二の功德不思議の力である」と言われている
のであります。

ひろば

福祉の



幸せのお手伝い

不安な1年目を支えてくれた
子どもの笑顔と保護者の言葉

初めての担任を経て、今がある

保育教諭として働き始めた頃、私は不安な思いを抱えていました。子どもが好きで、子どものためになにかできることがあるのではないかと思いついて、光徳保育園で保育教諭として働かせていただくことになったものの、大学の授業や実習では、経験することができなかった保護者の方との関係づくりについて、どのように関わればよいかや、うまく関係が築けるかとても不安でした。

担任になって初めての行事、「親子遠足」に行つた時に、まだ関係が築けていない中でどうした

らいいかわからない中、クラスの保護者の方から声をかけていただき、一緒にお弁当を食べ、お話をしていたとき、不安に感じていた気持ちが少し和らぎました。

その後も、さまざまな行事や日々の登降園時に声をかけていただき、私自身が保護者の方に助けてもらい支えられていることに気づいたのです。自分も子ども達だけのために保育をしているのではない。ことを学び、より子ども達や保護者の方に真剣に向き合いたい気持ちが高まりました。日々の保育は想像していた以上に大変なことが多く、気持ちの面でも波が大きくなりました。し

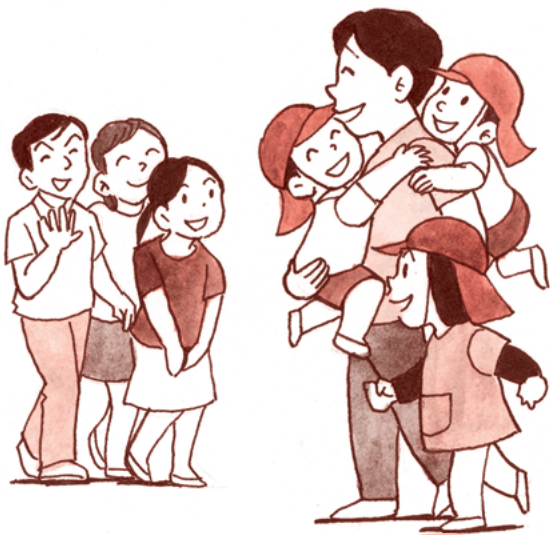
かし、子ども達の姿や笑顔を見ると元気づけられ、一緒に遊ぶことも楽しく、何度でも「頑張ろう！」という気持ちになりました。また、目の前で日々成長していく子どもの姿は、私自身もうれしく、保護者の方と共感し合い、一緒に成長を感じていくことのできるこがやりの一つになっていきます。

この経験があったからこそ、今の保育者としての自分があります。保育と真剣に向き合うことができ、子どもの成長を楽しむことができ、保護者の方の助けになりたいという気持ちを持ち続けることができています。

初めて担任させていただいた子ども達は卒園後も遊びに来てくれて、保護者の方も私を見かけるとびに声をかけてくださいます。あの時の子ども達・保護者の方々が今も私の中での福祉人・保育

者として大切な土台となっており、深く感謝しています。

光徳保育園 グループリーダー 保育教諭 村松 裕平



メンタルヘルス研修を開催



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会
～法音寺を会場に職員研修を実施～

近年、働き方の変化や社会環境の変化に伴い、労働者が精神的疲労や悩みを抱えるという問題が深刻化しています。厚生労働省の『令和4年労働安全衛生調査』の結果からも、現在の仕事や職業生活に關することで、強い不安やストレスとなっていると感じる事柄がある労働者の割合は82・2%と公表されています。そして、そのような労働者の問題に対し、企業による対策の強化が求められています。

福祉の仕事は、自分の感情や気持ちを制御して、状況や相手にあわせた言動が求められる「感情労働」と言われています。しかし、感情や気持ちの制御は、簡単にできるものではありません。特に経験年数の浅い職員は、強いストレスから心が不安定になり、健やかに働けなくなる危険性が高くなるため、その対策が重要となります。

そのため、当法人も今年度から、特定社会保険労働士で産業カウンセラーでもある、松下操（まつし みさお）氏に講師をお願いし、各拠点施設の全役職者（約110名）を対象に法音寺を会場として

研修を開催しています。

役職者を対象とする研修を開催したのは、部下の些細な変化に対して迅速に気づき、適切な対応をすることで、部下の心の不調を未然に防ぐという目的があるからです。

また、それだけではなく、役職者自身の心が不調にならないようにすることも、今回の研修開催の重要な目的としています。

近年は、特定技能等の外国籍の職員や、さまざまな経歴、価値観を持つ職員が増えており、部下に対する指導育成の方法も、個々に合わせた細やかな対応が求められています。

また、福祉現場が抱える支援の課題は、複雑化しており、役職者が対応する内容も広範囲となつていきます。そのため、役職者は、自分で気がつかないまま、心に負荷がかかり、不安定になる危険性があります。このことから、役職者自身が、自分の状況を客観的に把握し、心の不調を未然に防ぐことができるように、自分自身で健康を管理する方法について

も研修で学んでいただきました。

ほかに研修では、さまざまな事例をもとに、部下に對してどのような声掛けや対応をしたらよいかについて、参加者同士が持つ経験を共有しながら意見交換するなど、とても有意義な研修でした。

(補足)

「メンタルヘルス」とは、心の健康状態を意味します。心が不調になると、思考力や集中力が低下する、判断力が鈍る、些細なことでイライラする、否定的な思考が繰り返し浮かぶ、涙もろくなる、無気力感などが起こるようになり、その結果業務にも支障をきたす状況になります。企業は労働者が健やかに仕事できるように対策を講じることが求められています。



法人本部事務局 人事課長 瀨瀬 純司

日本福祉大学卒業生のご紹介

「修学先生が建学の精神に込めた」「日本福祉大学で養成したい人物像」に寄せて



右：富澤 友博さん 2007年社会福祉学部 卒業
左：大場 霞さん 2014年社会福祉学部 卒業

法音5月号で掲載させていた
だいた、修学先生が建学の精神
に込めた思いに対し、本学がこ
れまでどのような卒業生を養成
してきたのかをご紹介します。シ
ーズ。今回は、社会福祉学部を
卒業し、現在は地元である山形
県最上町の社会福祉協議会にて
勤務する二人にお話をうかがい
ました。

―山形県から日本福祉大学に進学したきっかけは

富澤さん…高校時代、ボランティアサークルに所属し、月
2〜3回ボランティア活動に参加していました。会長も務
め、一人暮らしの高齢者宅の除雪や年賀状作成、県内の高
校生ボランティアサークルとの交流等、さまざまな活動を
したことを覚えています。当時、曾祖父は介護が必要な状
態だったこともあり、自分にとって福祉はごく身近なもの
でした。3年生になって、先生から「日本福祉大学で学ん

でみたらどうか？」と勧められ、日本で最初にできた社
会福祉学部^①に惹かれて進学を決意しました。

大場さん…私も先生からの紹介がきっかけですね。高校の
授業で知ったスクールソーシャルワーカーに興味を持ち、
当時来ていたスクールソーシャルワーカーの先生にいろい
ろな話を聞いていました。そんな中、進路指導の先生が日
本福祉大学の存在を教えてくださいました。調べてみたら社
会福祉学部の評判が良かったし、当時あったアフタヌーン
コースで学費を抑えられるところも魅力的でした。あと、
遠く離れた場所だからこそ行ってみたい！という気持ちも
ありました。地元との違いやその地域の良さを知る良い機
会ですからね。

―人にやさしい福祉をめざして―

富澤さん…大学卒業後は地元でUターンし、障害者支援施
設で生活支援員として働く中、重度障害の利用者さんが自
然とふれあう活動によって気持ちが穏やかに安定する様子
を見て、「農業と福祉で何かできないか」と考えるようにな
りました。悩んだ結果、1年間は勉強に充てようと決意

し、12年勤務した職場を退職しました。町内のさまざまな農家さんのもとでしっかりと勉強させていただいたあと、社会福祉協議会のデイサービスで介護職員となり、送迎に入浴介助、レクリエーションや機能訓練等、さまざまな業務を担当しています。

大場さん…大学を卒業して長野県のデイサービスで数年介護に携わったあと最上町に戻り、働きながら日本福祉大学の通信教育部で勉強しました。仕事との両立は大変でしたが、参加したスクーリングで職業も年代も地域も異なる方々と出会えて楽しかったですし、自分も頑張ろう！と励みにもなりました。晴れて社会福祉士に合格した年、社会福祉協議会に採用してもらいました。地域福祉係では、学校での福祉教育、地域のサロン活動や高齢者の居場所づくり支援、ボランティア活動に相談業務等、幅広く活動しています。

―「ふくし」は楽しいもの―

富澤さん…1年間農業を学び福祉の現場に戻った現在も、農福連携について学んでいます。全国各地でさまざまな取



【放課後わくわくキッズルーム】で小学生を見守る大場さん



安全運転を心掛けて送迎業務を担う富澤さん

り組みをしている方々の話はとても参考になりますし、良い刺激を受けています。日常の中でアイデアがひらめくこともありますが、アイデアを形にするには課題も多く、まだまだ勉強が必要だと感じています。これからも農業×福祉の可能性を考え、自分がやりたいこと、自分にできることは何かと模索しながら、思い描いた農福連携の実現に向けて日々頑張っていきたいと思っています。振り返ってみると、大学で学んだことや経験してきたことが現在の自分につながっていると実感しています。

大場さん…私は、住民があつてこそこの「ふくし」だと考えています。少子高齢化で大変なことも多いですが、お互い助け合つて、地域の方には笑つて毎日を過ごしてほしい。「ふくし」は苦しいものではなく、楽しいものだと思つてもらいたい。その想いをもとに、今後も住民の皆さんの活動をお手伝いして行きたいです。

大場さんの「地域の方には笑つて毎日を通」じて欲しい」、富澤さんの「自分にできることは何かと模索しながら」という思いは、皆を笑顔にし、周りの人達の幸せを喜びとする人物を養成したいと願われた修学先生の思いと重なる部分があるのではないのでしょうか。お二人には今後も引き続き、さまざまな分野でご活躍いただきたいと思います。

東北地域ブロックセンター 山形最上オフィス 中嶋 文恵

幸せの種まき

私達は父母・祖父母

そして大勢の先祖による
合作であることを自覚しましょう

大勢の方達の因縁をいただいて

私達は生まれてきました

父母や先祖を敬いましょう

大乗山 法音寺

編集後記

山首上人さまは今月号の『朝のこない夜はない』で、「親孝行」をテーマにご法話くださいました。

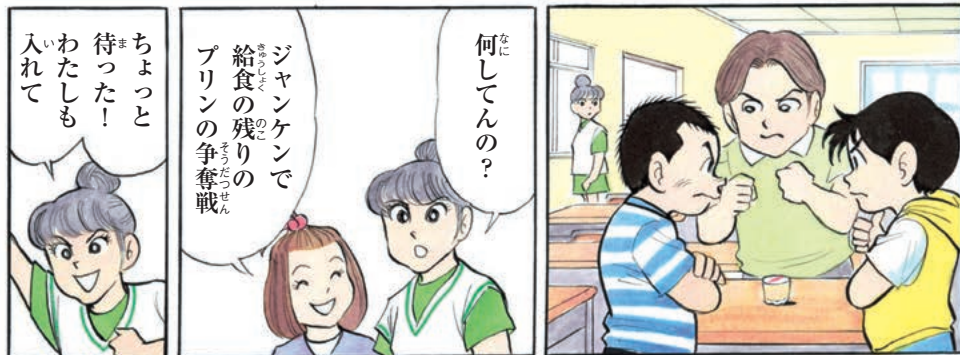
「孝行したい時分に親はなし」とよく言われます。確かに親の気持ち理解できるようになった頃、すでに親は亡くなっていて、もう少し優しくしてあげればよかった……と思うことは多くの人の心にもあると思います。だからこそ親が生きている間に感謝の気持ちを伝えておきたいものです。

誰にも誕生日はやってきません。しかし、その日は自分のために母親が産みの苦しみに必死に耐えてくれた日です。親がいなければ、自分が生まれることはなかったことを思うと、孝行を心掛けてその恩に報いるようにしなければなりません。その意味では先祖を敬うことも同じです。数え切れないほどのご先祖が命をつないでくださったお陰で、私達は今の時代に生きていることを意識したいものです。

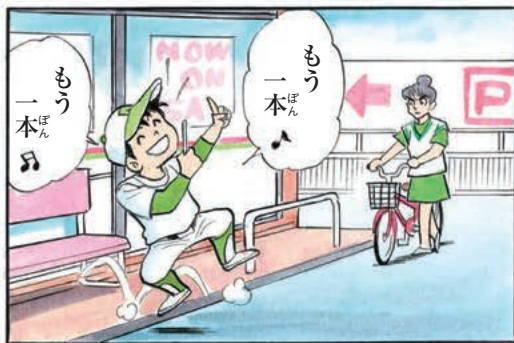
支院だよりの盂蘭盆会のレポートでは、皆さんがご先祖に感謝の誠を捧げている様子が描かれています。法音寺に連なる私達は、親や先祖を敬う心を持ち続けたいのだと改めて思いました。

うん 運がはこんだもの

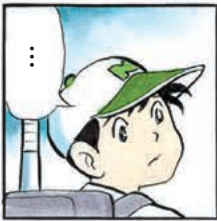
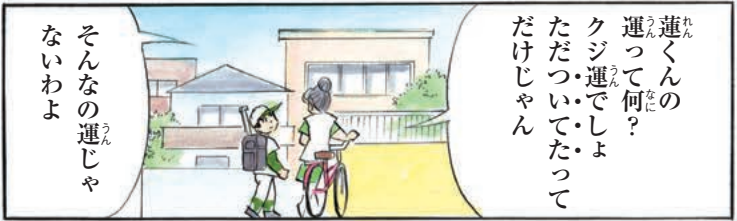
竹中 淳

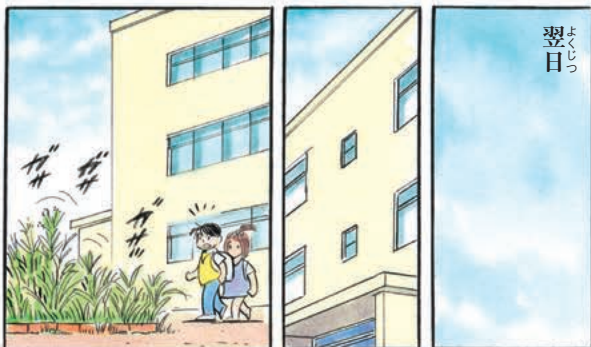
















おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





悦可衆心

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10
TEL (052) 831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL (0569) 87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和6年10月号・No.660・令和6年10月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社